

## 言葉は“いのち”

国際教育研究所顧問 伊藤卓治

数ある科目の中で、言葉（英語）の教育に縁があった。今まで感じたことを、思いつくまま少々おぼえてみたい。校務・雑務の多忙の中、“A Dictionary of English American Usage,” Y. Inoue や、“Kenkyusha’s New Dictionary of English Collections” S. Katsumata などと首っ引きで、解釈、文法、作文の授業に集中するのが精一杯であった。1989年には学習指導要領が改訂され、英語教育の目的は、コミュニケーション能力の育成にあるとされ、高校に「オーラルコミュニケーション」科目が新設された。受験指導には、“英会話力”も必要となり、アメリカ人の先生から英米会話を教わった。四苦八苦。マスターは無理であったが、“恰好”だけはついた。

ところでクラス50人近くの生徒達は、“routine”のような授業にはなかなかついてこない。“sleeping”者もいる。そこで、時々、時間をさいて、単語の文化的背景や、私の経験談等を話す。2～3の例をあげてみる。まず、baseball; アメリカでは national games の代表的なもの。今のようルールになったのは130年くらい前のこと。野球は北米、中米、アジアの一部に普及している。特に日本では盛んである。多くの日本人選手が大リーグで活躍している。特にイチローは、Harold Sisler の年間最多安打 257本を破り、262本という金字塔を打ち立てた。スゴイ！ここまで力説すると“sleeping”者も目を覚ます。次に私のイギリスでの home stay 時のこと。英米人は会話の時、よく名前をいう。親近感がでる。親しい間柄、また、上下関係がはっきりしている場合等、時々、“first name”や、“nick name”で呼ぶ。私の場合、Takuji→Taku→or→Turkey. まるで七面鳥である。

次にもう一語、proud: 日本文化では”自分”や”身内”の”ことを自慢するのは嫌みとされる。控え目にいうのが自然で、おくゆかしい。英米人は平気で、I’m proud of~. という。彼らは幼少より自分というもの一自我(ego)一を確立していくよう躰けられる。グローバル時代のコミュニケーションの在り方としては、われわれも自我意識(ego)を、少々強調した方がいいように思う。以上のような話を時々した。生徒達は“目を開けて”よく

聞いてくれた。授業もスムーズに進む。“雑話の効用”といえよう。

さて、言葉には力がある。全く英語の苦手な生徒が、ある時単語の発音がうまく、きれいにしたことがあった。私は徹底して、彼の発音を褒めつづけた。人は褒められて悪い気はしない。彼の成績は次第にアップし、クラス代表で暗誦大会に出るまでになった。大学は英文科に入った。褒めつづければ、“ピグマリオン効果”がある。道元は「愛語よく廻天の力あるなり」(『西法眼蔵』)という。愛語一常に優しく、親愛のこもった言葉で語りかけることには、天を廻天させる力がある、と説いている。

言葉の本質は「口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界を、いやおうなしに背負ってしまうところにある。」(大岡信『詩・ことば・人間』講談社学術文庫)。つまり言葉は、その人の心、人格、思想であり、また文化であり、極言すれば“いのち”そのものといえる。まさしく「言の内に命が」(ヨハネによる福音書)がある。バイブルには他に「正しきものの口は、いのちの泉たり、あしきものの口は、あらしきことをおおう」(箴言)など、言葉についての警告も多い。

仏教には、在俗の保つべき十善戒(10の戒め)がある。十のうち四つ一妄語・綺語・悪口・両舌一までが言葉に関するものであり、その肝要性が読みとれる。

人格形成に最も近い教科目の一つは、言葉の教育であろう。以上は拙い私の反省である。終生自戒の念にしたい。

## 2017年度第6回理事会議事録

日 時: 平成30年2月25日(日曜日)14時~15:00

場 所: 英検協会 B館1階 A会議室

出席者: 山岸信義, 勝俣美智雄, 毛利千里, 田中ケリー, 若林陽子, 片山七三雄(6名)

書 記: 片山七三雄

### 1 報告事項

#### (1) 月例研究会報告の件: 山岸信義

平均18名の参加者。ただし7月の田中先生の30名参加があるため、実際の平均は10名前後になる。

#### (2) 10月29日 共催セミナーに関する報告の件: 毛利千里

セミナー開催費用を、共催側と分担できなかった。これでは、共催というよりは後援形式のセミナーのようであった。次回の共催セミナーでは、費用分担の決め方が課題となる。

- (3) 決算報告の件:毛利千里  
総会期日が早い為、まだ増減有。本日以後の入出金は来年度廻し。
- (4) 紀要の査読の件:勝又美智雄  
他学会の基準を参考にすが、本研究会の現状に鑑み、査読要領を作成した。  
執筆者、査読者共に匿名性を担保する。  
担当者を中心に、引き続き基準作成に取り掛かる必要がある、
- (5) 広報活動の件:若林陽子  
大修館の英語教育などの雑誌を含め、月例会等の本研究会の広報活動の幅を広げる。
- (6) 英検協会との関わりの件:山岸信義
- (7)その他:  
今までは、外部の紀要執筆者には、原稿料五千円を支給してきたが、今年度からは、他の学会と同じように  
紀要の原稿料は支払わない事になった。

## 2 審議事項

### (1)人事の件

- ① 役職辞任の希望があった場合の承認の件  
鈴木政浩先生、斎藤裕紀恵先生の年度途中での役職辞任が承認された。
- ② 理事補充として、瀬上和典先生の理事就任が認められた。
- ③ 小原弥生先生、片山七三雄先生の副理事長・副所長就任が承認された。
- ④ 2018年度の会計監査を徳矢 進顧問にご担当頂く事になった。

### (2) 次年度の月例研究会の時間延長と持ち方の変更の件

今までの15:00～17:00までの時間を、1時間伸ばし、14:00～17:00までとする、前半の第1部を講演とし、後半の第2部を授業実践発表とする。

### (3) 2018年度の共催セミナー開催の件

グローバル人材育成教育学会との共催セミナーの件では、ご担当の勝又美智雄先生からすでに概要がまとめられ、現在、企画・人選の調整が推し進めて頂いている。

(4) 「英語発音講座」開設の件

提案者の田中ケアリー先生から、発音講座の趣旨と具体的な計画についての説明があった。

会場を提供していただいている英検協会側と詳細を詰めることになった。

発音講座の会費に関して、会員を無料とし、非会員を有料とするとの提案がなされた。

(5) 会計報告の件(毛利)

支出の部 月例会講師謝礼は 6 名分となる見込、非会員の紀要原稿執筆者への原稿料支払い

は、他学会で行っていないので、当学会でも今年度から中止とする。

(6) プロジェクター購入の件

当初案ではプロジェクターを購入する予定であったが、既存のものを利用し、

コネクターで対応することとする。その旨を発表者にはあらかじめ連絡することとする。

(7) ホームページの件

費用や作成の件で、業者に依頼することを含め、今後の検討課題とする。

(8) 名簿作成の件

会員全員に記載事項の確認をし、その後会員名簿を作成する。

(9) 理事会開催時期の件

新年度理事会の開催に関しては、理事にメールで連絡する方式も検討する。

4 月、7 月と忘年会・新年会を兼ねた年三回程度とし、それ以外にはメール連絡とする。

以上

## 2017 年度 国際教育研究所 総会 議案

日 時：平成 30 年 2 月 25 日(日曜日) 15:00～17:00

場 所：公益財団法人 日本英語検定協会 B 館 小会議室

出席者：山岸信義、勝又美智雄、徳矢 進、毛利千里、江口邦彦、片山七三雄、若林陽子、田中ケアリー（以上 9 名）

欠席者：羽鳥博愛、伊藤卓治、富岡 卓、須田和也、永山智高、永井 良、林 正人、

明神千代、鈴木政浩、白石よしえ、山崎 勝、萱野 豊、井上裕子、山下次郎、柳瀬美佳、斎藤守央、恒安眞佐、橘 広司、平見勇雄、海江田 淳、三沢 渉、笹島 茂、小原弥生、山野有紀、赤塚祐哉、斎藤裕紀恵、柳澤順一、山本あゆみ、慶山豊治、慶山綾子、大澤美穂子、濱崎敦弘、金岡正浩、羽成拓史、小田めぐみ (以上 35名)

#### 総会次第

司 会：勝又美智雄（副所長）

所長挨拶：山岸信義所長

書 記：毛利千里事務局長

#### A.報告事項

##### 1. 平成29年度国際教育研究所月例研究会実施報告

- ① 2017年度は「英語教育を通してのグローバル人材の育成」を年間テーマとして、月例研究会を実施した。
- ② 月別出席者数：4月（19名）、5月（11名）、6月（16名）、7月（30名）9月（18名）、11月（11名）で、平均18名の出席者であった。
- ③ 月例研究会の出席者からは、他の英語教育学会では見られない、多様なテーマがあり、内容も充実しているとの感謝の言葉を頂いているので、今までの伝統を活かしつつ、新たな課題に取り組んでいきたい。
- ④ 中学・高校の英語教師の出席者が少なくなってきているので、今後は、月例会に授業実践発表を多く盛り込み、中・高の先生方の参加者を増やしていきたい。中・高の先生方への参加の働きかけの方法も考えていきたい。

##### 2. 10月29日（日）に開催された、日本リメディアル教育学会英語部会との共催セミナーの実施報告（山岸）

###### ① 共催セミナーの参加者 31名

内訳	会員	15名	（講演者、パネリストを含む）
	学生	3名	
	一般	13名	
	講師	3名	

###### ② 共催セミナーの総括（理事長）

理事の先生方を中心に、周到的な事前準備がなされ、プログラムの中で発表された先生方の評価も高く、白熱した話し合いが展開された。アンケート結果を見ても、当日のプログラムのどの項目にも、殆どが「大変良かった」の欄に丸印があり、感謝の言葉が書かれている。

###### ③ 共催セミナー会計報告（毛利）

2017年度共催セミナー収支報告

2017/10/29実施

1) 収入 セミナー参加費 38,000円

内訳	会員 @1000円×15名	15,000円
	一般 @2000円×10名	20,000円
	学生 @1000円×3名	3,000円

2) 支出 合計 89,147円

内訳

前日打ち合わせ会場費 (カフェミヤマ)	7,740円
講師謝礼 (中西+安藤先生、猪狩先生)	20,000円
資料コピー代	10,704円
ネームホルダー代	2,160円
講師等弁当代	10,800円
懇親会用茶菓代	10,743円
会場費 (含マイク、スピーカー、スクリーン使用料)	27,000円

3) 1) - 2) △ 51,147円

4) △赤字の51,147円は、会場費を本会計の10月月例会会議室使用料27,000円で相殺し、差額の24,147円は共催セミナー補助金として本会計の予備費にて補填する。

以上報告いたします。

2017年11月11日

国際教育研究所会計 毛利千里

### 3. ニュースレター発行の件 (山岸)

①News Letter 第73号が2017年6月30日に発行された。巻頭言：山岸信義所長

① News Letter 第74号が2017年10月10日に発行された。巻頭言：勝又美智雄

② News Letter 第75号は2017年12月10日に発行予定。巻頭言：平見勇雄

③ News Letter 第76号は2018年3月10日に発行予定。巻頭言：伊藤卓治

### 4. 2017年度 (平成29年度) 会計決算報告 (毛利)

齊藤守央会計監査と連絡が取れなくなり、監査依頼が出来なくなったので、

今年度は、会計監査代行として、所長に2017年度の決算報告書、会計帳簿、銀行通帳を照合して頂き、会計監査をして頂いた。

## 国際教育研究所2017年度（平成29年度）会計決算報告

2017/04/01~2018/01/31

### 収入の部

A 前年度繰越金	<u>322,197円</u>
(2017年度賛助団体年会費70,200円と会員年会費9名分45,000円を含む)	
B 2017年度収入	
2018年度会費	10,000円 (@5,000円×2名)
2017年度会費	105,000円 (21名) (未納11名)
2016年度会費	20,000円 (4名) (未納4名)
2015年度会費	10,000円 (2名) (未納3名)
月例会参加費 (第169~175回)	72,500円
銀行利息	1円
小計	<u>217,501円</u>

### C A+B合計

539,698円

- 2017年度会員総数 名誉所長1名、顧問2名、会員43名、賛助団体1
- 2017年度新入会員 若林陽子、金岡正浩、羽成拓史、小田めぐみ、田中ケアリ、  
白石よしえ、赤塚祐哉、山野有紀、斎藤裕紀恵、小原弥生、  
柳沢順一、山本あゆみ、慶山豊治、慶山絢子 (14名)
- 2017年度退会会員 日野克美、斎藤守央、恒安真佐 (3名)
- 2018年度新入会員 猪狩保昌、猪狩 愛(2名)

### D 支出の部

郵送料	6,864円 (20,000円)
事務費 (コピー代等)	31,501円 (20,000円)
月例会講師謝礼 (9月)	10,000円 (20,000円)
同 交通費	3,000円 (0円)
月例会会場使用料 (英検)	71,604円 (75,000円)
紀要印刷、製本代	27,756円 (20,000円)
共催セミナー補助金	24,147円 (予備費より)
合計	<u>174,872円 ( )内は予算額</u>

### E 1月31日現在繰越金 (C-D)

364,826円

(内訳 みずほ銀行 364,556円、現金 270円)

以上の通り報告いたします

2018年02月25日

監査の結果相違ないと認めます。

会計 毛利千里 印

会計監査代行 山岸信義 印

## 5. 紀要第24号発行の件 (勝又)

- ①平成29年度 国際教育研究所 紀要 第24号応募規定に基づいて、原稿の提出があったのは、斎藤裕紀恵先生、勝又美智雄先生、中西千春先生、安藤香織先生、太田辰幸先生、山本あゆみ先生、鈴木政浩先生、猪狩保昌先生の8名であった。
- ②今回から、査読要領を作成して、審査に当たった結果、1名が不採用となり、さらに他の1名の原稿は、ニューズレター第76号に掲載されることになった。
- ③現在、査読結果を紀要原稿執筆者に戻し、完全原稿を再送して頂く事になっている。査読委員会で、再チェックした上で、3月中旬に紀要第24号のPDF版を発行予定にしている。
- ④紙媒体の紀要24号も、20部前後発行予定にしている。
- ⑤紙媒体の紀要24号も、20部前後の発行を予定している。
- ⑥現在の紀要編集委員は下記のようになっている。  
論文審査委員長 勝又美智雄 (国際教養大学名誉教授)  
副論文審査委員長 鈴木政浩 (西武文理大学准教授)  
査読委員: 片山七三雄 (東京理科大学教授)、林 正人 (立命館大学教授)  
小田めぐみ (国際短期大学専任講師)、小原弥生 (東京家政大学非常勤講師)、瀬上和典 (東京家政大学非常勤講師)
- ⑦今回作成した査読要領は、暫定的なものなので、次年度に向けて、さらに紀要の質を上げるために、論文の評価基準も作成して、紀要原稿応募規定の中に、査読の評価基準の含めた査読要領を作成する予定である。
- ⑧非会員に紀要原稿を依頼した場合でも、原稿料は支払わない事になった。

## 国際教育研究所の査読要領について

紀要第24号 編集委員長 勝又美智雄

当研究所の紀要に掲載するものは、従来(1)国際教育に関する論文及び英語教育関係



の論文（2）上記の分野の書評、としています。このうち（1）の論文は研究成果をまとめた研究論文と教育現場での実践報告に大別されると思われませんが、実践報告の場合も「こういうことをやった」という報告にとどまらず、その実践からどういう教育効果が期待できるのか、方向付けを示すことができるようなものを期待しております。

この紀要をより質の高い学会誌として研究所内外から信頼されるようなものにするため、査読は公正で、執筆者とともに、より優れた論文に改めていく協同作業と考えて、評価していただきたいと願っています。なお査読者が誰かは執筆者には伝えません。

そこで査読に当たっては、以下のような方針で臨んでください。

査読した結果を大まかに A、B、C、の3分類に評価し、その理由をコメントする。特に B、C の場合、どの部分が問題かをわかりやすく伝えるため、赤字を入れるのが望ましい。

A: 大変良くできているので、ほぼこのまま掲載しても差し支えないと判断できるレベル。

B: 論文としての体裁は整っているが、内容的に見て論証や説明がやや不十分で、わかりにくかったり、文章表現などでやや問題があり、部分的に修正する必要があると判断されるレベル。

C: 執筆の目的・趣旨と記述内容に整合性がなく、結論がよくわからないなど問題が多いため、論旨を明確にするよう大幅に書き直す必要があると判断できるレベル。

編集委員会としては、いずれの場合でも、執筆者には、誤字脱字や誤記の訂正も含めて、より優れた原稿にするため改訂稿を出すように求めます。また紀要には掲載されなくても、様々な体験レポート、エッセイ・評論の類は研究所発行の「ニュースレター」に掲載を促していきます。

なお今回の査読の経験をベースに、次年度以降、研究所の紀要の査読基準をより良いものに改訂していく予定です。ご協力をお願いします。

## 平成30年度 国際教育研究所 紀要 第25号応募規定

### 1. 応募資格

本研究所の会員及び会員の推薦を受けた者

### 2. 内容

- 1) 国際教育に関する論文及び一般英語教育関係の論文
- 2) 上記の分野の書評

1) 2) ともに未発表のものに限る。ただし、口頭による発表はその限りではない。

### 3. 形式・分量

1) 日本語または英語

2) ワードプロソフト（ワード、一太郎等）で作成する。字数はA4横書き、1ページあたり36字35行とする。（MS明朝 10,5ポイント）。タイトルはゴシック（太字<ボールド>にはしない）とし、タイトルの後に4行の改行を入れて、

執筆者氏名（勤務先・肩書等）を記入する。氏名の後には改行を1行入れてか

ら、本文を始める（フォーマットは本研究所ホームページからダウンロード可能）。3)

大見出しの前には改行を1行入れる。フォントはゴシックとし太字<ボールド>にはしない。

4) ページ数は10ページを目安にする。5) 提出は電子メールにデータを添付し、[katsumatamichio@gmail.com](mailto:katsumatamichio@gmail.com)（勝又美智雄担当理事）と [yvama300@mbd.ocn.ne.jp](mailto:yvama300@mbd.ocn.ne.jp)（所長）宛に送付するか、データを何らかのメディアにコピーして、下記に郵送する。

送付先 〒162-8055

東京都新宿区横寺町55 公益法人 日本英語検定協会内

国際教育研究所事務局紀要編集係 電話・Fax: 03-3289-1206

4. 紀要25号発行予定日：2019（平成31）年3月

5. 原稿締め切り 平成30年11月30日

6. 掲載 提出した論文は、紀要編集委員会の査読を経て、審査後に掲載する

### 紀要編集委員

論文審査委員長 勝又美智雄（国際教養大学名誉教授）

副論文審査委員長 片山七三雄（東京理科大学教授）

査読委員 林 正人（立命館大学教授）

鈴木政浩（西部文理大学准教授）

小田めぐみ（国際短期大学専任講師）

瀬上和典（東京家政大学非常勤講師）

小原弥生（文京学院大学非常勤講師）

6. 昨年の理事会では、共催セミナーでのシンポジウムの概要を紀要に掲載し、その原稿執筆を勝又美智雄先生にお願いする事に決まっていた。その後、紀要審査要領が出来たことで、シンポジウムの概要報告は、紀要に掲載する基準に合わなくなった。その結果、勝又先生にご執筆頂いた原稿は、3月10日発行の「ニューズレター第76号」に掲載されることになった。

7. 査読後の最終論文は、紀要編集委員会の最終確認を経て、紀要発行となる。

## 8. 会員・新会員動向

- ① 恒安眞佐先生から、一身上の都合で、平成29年度を持って退会したいとの申し出があった。
- ② 共に都立高校教諭の狩野保昌、狩野 愛ご夫妻から、来年度からの入会申し込みに合わせて、既に会費納入がなされている。

## 9. 研究部長の鈴木政浩先生が取り組んでおられる科研費による、英語授業学関連の研究には、来年度以降も、当研究所が全面的に協力することになりました。

その流れの中で、2018年度からは、月例会を1時間増やして、3時間の中に、講演と授業実践発表を入れることになった。

これに関連して、日本リメディアル教育学会英語部会長の鈴木先生は、同学会でも当研究所と同様に、科研費での協力体制が取れている関係で、来年度の当研究所の月例研究会に、日本リメディアル教育学会英語部会員の方々やその他の関係者も参加されることになりましたので、お知らせします。

## 10. 科研費研究に伴い、国際教育研究所の会員の皆様にお伝えしたい事（鈴木政浩）

出張旅費の補助金の支給、本の出版に伴う執筆の件、授業実践での取り組みのお願い、科研費での「英語授業学研究」の概要、その他

## 11. 広報企画・運営委員会からの広報活動についての連絡（若林陽子）

現在は、大修館書店発行の英語教育やELECの「えいごネット」に月例会の案内掲載をしているが、その他のルートでも広報活動を推進して行きたい。

## 12. その他

- ① 英検協会との窓口が、2月からかわり、事務局管理課の山本 香さんから、総務部の岡田真吾総務課長が窓口となった。
- ② 平成29年度も、月例研究会の当日にA,Bの大会議室と小会議室が使えるようになった。
- ③ 英検協会からの賛助会費は、当研究所の年間の会議室の使用料の総額となっている。平成30年度からは、月例会の時間が2時間から3時間に伸びた関係で、賛助会費は、13万円を超えると思われるが、既に来年度の会議室の使用許可がなされている。11月18日の共催セミナーは、日曜日であるが、会議室の

使用が承認された。

- ④ 現在、共催セミナーの後援を、英検協会と交渉中である。
- ⑤ 7月28日（土）の月例研究会の講演では、英検協会の松川理事長にご講演を頂くことになった。

## B. 審議事項

### 1. 人事の件

「役職辞退の申し出を受けた会員の辞任と新役員承認の件」

- ① 国際教育研究所の規約第九条には、「各役員の任期は2ケ年とする。但し、再選は妨げない」と書かれている。現在の役員の任期は、2019年3月までとなっている。当研究所では、理事会制度になって1年目なので、任期途中での役員辞退の申し出を受けた場合の規定はない。
- ② 鈴木政浩先生の副理事・副所長，斎藤裕紀恵先生の理事の年度途中での役職辞任が承認された。
- ③ 斎藤先生の理事辞任に伴う理事補充候補として、推薦された瀬上和典先生の理事就任が認められた。
- ④ 次年度からは、副理事長・副所長の三人体制を取ることになり、勝又美智雄先生に加えて、小原弥生先生，片山七三雄先生の副理事長・副所長就任が承認された。
- ⑤ 2018年度の会計監査を、徳矢 進顧問にご担当頂く事になった。

### 2. 2018年度国際教育研究所年間スケジュール

月例研究会の年間テーマ：「グローバル化に向けた英語教育の多様な試み」

**4月28日（土）第176回月例研究会（司会：山岸信義）**

第1部：講演（14：00～15：20）

テーマ：「すぐれた授業・よい授業とは何か？」

—英語授業学研究の視点から—

講 師：鈴木政浩（西武文理大学准教授）

休憩（15：20～15：30）

第2部：シンポジウム（15：30～17：00）

テーマ：「望ましい授業とは何か？」

パネラー：片山七三雄、明神千代、山崎 勝、鈴木政浩

司 会：小原弥生

**5月26日（土）第177回月例研究会（司会：小田めぐみ）**

第1部：講演（14：00～15：20）

テーマ：「グローバル人材育成に資する、3技能を鍛える英語授業最前線」

—映画を使ってListening, Speaking, Readingを鍛える理論的背景と方法—

講 師：白石よしえ（近畿大学教授）

休憩（15：20～15：30）

第2部：英語授業実践発表（15：30～16：30）

テーマ：「知識構成型ジグソー法」による「協調学習」

氏 名：山崎 勝

所 属：埼玉県立和光国際高校教諭

意見・情報交換：（16：30～17：00）

**6月23日（土）第178回月例研究会（司会：小原弥生）**

第1部：講演（14：00～15：20）

テーマ：「グローバル人材を育てるICUにおける英語教育

—リーディングカリキュラムと教材—

講 師：宮原万寿子（国際基督教大学准教授）

第2部：テーマ：CLIL学習による生徒の英語力向上（15：30～16：30）

Cooperation, Technology and Integrated Learning in the Modern ELT Classroom

講 師：山本恭子（秀明高等学校）Jason Demstader（ELT）

意見・情報交換：（16：30～17：00）

**7月28日（土）第179回月例研究会（司会：勝又美智雄）**

第1部：講演（14：00～15：20）

テーマ：「日本英語検定協会の半世紀を超える歩みと主な事業内容」

—英語能力判定、実用英語の研修・教育、研究助成の各事業—

講 師：塩崎 修健（公益財団法人日本英語検定協会 教育事業部 部長）

第2部：英語授業実践発表（15：30～16：30）

テーマ：「学習困難校のための英語教育」

氏名：猪狩保昌

所属：東京都立羽村高等学校

意見・情報交換：（16：30～17：00）

### 9月8日（土）第180回月例研究会（司会：若林陽子）

第1部：講演（14：00～15：20）

テーマ：【英語教育における教え中心から、学び中心へのパラダイム・シフト】

—学習者の自律的成長を促す教師の役割と課題—

講師：小嶋英夫（文教大学教育学部教授）

第2部：英国留学専門エージェントからの提言（15：30～16：30）

テーマ：「日本人の海外研修から見える英語教育の課題」

氏名：慶山豊治・慶山絢子

所属：株式会社 ニュープレイス（英国留学専門エージェント）

意見・情報交換：（16：30～17：00）

### 10月27日（土）第181回月例研究会（山崎 勝）

第1部：講演（14：00～15：20）

テーマ：「未来に生きる若者を育てる英語教師としての努力目標—学習者のやる気を引き出し、英語の総合力を付ける授業実践—」

講師：田口 徹（明治学院大学非常勤講師、元千代田区立九段中等教育学校教諭）

第2部：英語授業実践発表（15：30～16：30）

テーマ：「多分野についての内容理解と4技能5領域を扱う CLIL 的授業実践—生徒の自発性と探求心を養うには」

氏名：若林陽子

所属：千葉県立佐倉高等学校

意見・情報交換：（16：30～17：00）

### 11月18日（日）「グローバル人材を育てる英語教育法」共催セミナー

テーマ：「グローバル人材」と「英語教育」はどう重なるか

—グローバル人材＝英語ができる」は本当か—

共催：グローバル人材育成教育学会 / 国際教育研究所

日時：2018年11月18日（日） 10:00(受付9:30)～17:00

場所：財団法人日本英語検定協会 B館 1階会議室（新宿区横寺町 55）

参加費：2,000 円（会員・学生は 1,000 円。会場で支払う）

定員：50 名（事前申込み制。先着順）

### 【共催セミナーの趣旨】

21 世紀初頭から政府、経済界の間で「グローバル人材の育成」が重要政策課題として掲げられてきたが、中学から大学（院）まで、教育現場では今だに「グローバル人材=英語ができる」ととらえて、英語検定試験、TOEFL、TOEIC などの成績を上げることを最重要視した教育に取り組んでいるところが多い。しかし「グローバル人材=英語力」は本当なのか、英語力をつけることが本当にグローバル人材を育てることになるのか、を疑問視する人たちも少なくない。そこで英語教員を主な会員とする学会と研究所が協力し、「グローバル人材」とは一体どういう人を指すのか、その育成方法に英語がどういう役割を果たすべきなのかという原点に立ち返って様々な角度から検討し、これからの英語教育のあり方を研究して今後の指針を提言したい。

### 【プログラム】

開会の挨拶：山岸信義・国際教育研究所長（10：00～10：10）

第 1 部 問題提起：「グローバル人材に英語はどこまで必要か」（10：10～11：10）

勝又美智雄・国際教養大学名誉教授（グローバル人材育成教育学会理事）

討論：「問題提起を受けて：現場での実感」（11：15～12：15）

A（英語教師） B（ビジネスマン） C（ジャーナリスト） 司会：勝又

< ランチタイム 12:20～13:30 >

第 2 部 英語教員たちの模索：挑戦と実験（13:30～15:00）

現場教師 3 人の報告各 20～30 分

< 休憩 >

### 第3部 日本語力と英語力の関係

問題提起：「日本語力あってこそその英語力」 (15:15～16:00)

小野博・グローバル人材育成教育学会会長

問題提起を受けての討論 (16:00～17:00)

3人（英語教師と国語教師、理系教科の教師）＋小野

司会（勝又）

セミナー終了後、神楽坂駅近くで懇親会を予定

問合せ：山岸信義 ([yyama300@mbd.ocn.ne.jp](mailto:yyama300@mbd.ocn.ne.jp)) 電話：090-1454-7901

勝又美智雄 ([katsumatamichio@gmail.com](mailto:katsumatamichio@gmail.com)) 電話：090-4595-8867

### 3. 2018年度「英語発音講座」開設に関する計画案（田中ケアリー）

#### 2018年度「英語発音講座」開設に関する計画案

提案者：田中ケアリー（英語発音指導担当理事）

趣 旨：英語発音を系統的に学び直し、発音の自己研修を兼ねて、英語指導に役立てたいと希望する英語教師が多いと思われる。

そこで、当研究所の月例研究会の前の時間帯で、英語発音講座の希望者を募り、英語発音指導担当理事として、英語発音講座の開設の企画を考えた。

英語発音講座では、サブタイトルとして「英語音声学アプローチ」、「発音クリニック」の項目を含め、英語発音の基礎知識を、音楽的要素で可視化して、分かり易く、楽しく学んでいく予定である。

場 所：公益財団法人日本英語検定協会 B館1階小会議室 A、B

予定日：5月26日、6月23日、7月28日、10月27日 時間：13:00～14:00

2年続きの講座とし、合計10回で修了するカリキュラムを組む



備考：4月は先約で講座が開けないので、5月26日に、11:45～12:45と  
13:00～14:00の時間帯で、2回の「英語発音講座」を計画している。

受講料：国際教育研究所の会員は無料とする。但し、会員以外の受講生からは、実費代も  
含めて受講料を徴収する。（1回の受講料は、500円とする。）

内 容：英語特有のリズム、抑揚、音声変化、母音・子音の発音方法、他  
発音講座応募の対象者：小・中・高・大・塾などで、英語を教えている教員・指導者  
当研究所の広報企画・運営委員会のご協力を得て、希望者を募る

備 考：英語発音講座は、年度初めに応募者を募るのが原則であるが、年度途中でも、  
会員・非会員を問わず飛び入りの受講を認める。但し、飛び入りの場合でも、  
非会員からは、実費代も兼ねて、受講料を徴収する。

- 今後の課題： ①発音講座修了証書授与を検討する  
②10回目の発音講座で、受講者の「発音のレベル検定」を実施し、  
受講者の今後の努力目標を提示して、ご参考にして頂く。  
③将来英語教員を目指す学生にも、英語発音講座を希望する者には、応募  
資格を与えるかどうかを検討する。  
④英語発音講座の募集方法を検討する。当研究所の会員に募集案内を出し、  
次に、小・中・高の英語教員関連の関係団体を中心に、参加者を募集す  
る方法も考えられる。  
⑤「発音講座受講者募集」の時に、定員人数を明記する。  
⑥ 発音講座の会場作りや受付などの協力体制作りを検討する。

#### (4) 国際教育研究所2018（平成30）年度予算案

1. 前年度繰越金 364,826円

\*2018年度会費納入済みの新入会員2名分10,000円を含む

2. 収入の部 会員総数42名+3名（名誉所長1名・顧問2名）、賛助団体1

2018年度会費（@5,000円×40名）	200,000円
2017年度会費（未納11名）	55,000円
2016年度会費（未納4名）	20,000円
2015年度会費（未納3名）	15,000円
月例会参加費	50,000円
*賛助団体年会費	137,160円

---

小計 477,160円

合計（1+2） 841,986円

\*今年度より月例会時間が2時間から3時間となったため、英検からの賛助団体  
年会費（会議室使用料金）が70,200円から137,160円となりました。

### 3. 支出の部 {( )内は前年度実績}

郵送費(6,864円)	10,000円
事務費(31,501円)	30,000円
月例会講師謝礼(3名)	30,000円
* 紀要依頼原稿料(2018年度より廃止)	0円
紀要24,25号製本・印刷代(27,756円)	60,000円(2号分)
英検会議室使用料(71,604円)	137,160円
封筒印刷費	15,000円
予備費	80,000円

---

計 362,160円

4. 次年度繰越金(1+2-3) 479,826円

2018年02月25日

会計 毛利千里

#### (5) 平成30年度月例研究会の司会者 [案]

4月(山岸) 5月(小田) 6月(小原) 7月(勝又) 9月(若林)

#### (6) ニュースレターの発行予定日と巻頭言の執筆予定者

News Letter 第73号が2018年6月30日に発行予定。巻頭言：片山七三雄

News Letter 第74号が2018年10月10日に発行予定。巻頭言：明神千代

News Letter 第75号が2018年12月10日に発行予定。巻頭言：小原弥生

News Letter 第76号が2019年3月10日に発行予定。巻頭言：伊藤卓治

(7) 現在当研究所が所有しているプロジェクターは、最新のパソコンに対応できないこともあるので、講演会講師や授業実践発表者には、事前にプロジェクターに接続して、映像が写せるプラグを持参していただく。

(8) 当研究所のHPは、新しい情報を素早く発信する設備が不十分なのでレンタルでのHP立ち上げなども視野に入れて、その予算の積み立ても検討していく。また、HPの複数の担当者も検討していく。

## 共催セミナー・シンポジウムの概要 どうやって学習者の「学ぶ意欲」を引き出すか

勝又美智雄（国際教養大学名誉教授）

シンポジウムは第1部の鈴木政浩先生の基調講演、中西千春・安藤香織両先生の大学での授業実践の発表、さらに第2部冒頭の猪狩保昌先生の高校現場での授業実践を踏まえた提言を引き継いで、特に学習意欲の低い学生、英語が苦手でわからない、と思い込んでいる学生たちを具体的にどう指導していけばいいかを話し合った。パネリストは、この日の発表者4人に千葉県立佐倉高校で教えている若林陽子先生、それに私（勝又）が加わって6人で議論した。同時に大学での「楽しい授業」の実践で定評のある白石よしえ先生の明るく軽快な司会で、聴衆からの発言も活発にあり、そのQ&Aで突っ込んだ話し合いができ、充実したシンポジウムになった。

そこで出た議論のうち、現場教師たちへの提言として、参考になるものを以下にいくつか示すとー。

- ▶まず、教えるクラスの学生が資質、能力に合わせた授業方法を工夫する。ただしできない生徒が多いから、と安易に難易度を下げず、音声重視で達成が容易な課題を多く与えて、英検3級合格レベルでもCNNが聴き取れ、内容が理解できるという達成感を持たせることが重要だ。（鈴木）
- ▶英語力が基礎レベルの学生を自立学習できる学生に育てるには、教材テキストの表面的な理解以上に「深読み」の面白さを感じさせることが重要。そのためには、どんな質問をどれくらいすべきかを考え、それに対する学生の反応、答えから学生の英語学習への心理的な反発・葛藤を取り除くように配慮することが大切だ。（中西・安藤）
- ▶「できない生徒」は共通して「集中力」「理解力」「記憶力」の3つが欠けている。この3つの力が欠けている生徒は、英語力だけでなく家庭または、学校で学習することの力が、なんらかの事情により、身に付けることができなくなってしまったと考えられる。集中力がないから人の話を長く聞くことができない。理解力がないから、話を聞いても何を言っているのか、わからない。そして、集中力がないから記憶力が持続できず、英単語を覚えることもできない。その3つの力を身に付けるためには、生徒に「できる」という感触、つま

り「達成感」を経験させることだ。生徒に「勉強ができた」「英語の勉強ってやりがいがあるな」という気持ちを持たせれば、生徒は少しずつだが、教師を信頼し「英語を勉強してみよう」という気持ちが芽生えてくる。私自身は授業運営方法を抜本的に変えて、生徒が集中しやすい教材を作り、話し方を工夫してきた。演芸場で落語から、声の大きさ、聞きやすいスピード、説明する長さ・短さなどを学び、教室で実践してきた。(猪狩)

▶自立学習につながる Active Learning (探求型学習) の方法として、教室での授業を「安全な気づきの場」ととらえることが大事だと思う。そこで社会問題に目を開かせ、生徒同士、グループで課題解決に取り組むという作業を促すことによって、いろんなタイプの人間がいることに気づかせ、良好な人間関係をつくりながら「学ぶ楽しさ」と達成感を味わうことができるようになる。(若林)

▶まず、Motivation の低い学生には、自分の興味のある趣味(音楽・映画・アニメ・スポーツ・ファッション・食べ物など何でも)を広げるために英語の素材を探すように促す。インターネットのサイトが最も手軽で好適。同時に自分の好きな歌を暗唱させる。洋楽(Popular songs)なら歌詞を覚えさせ、邦楽なら日本語の歌詞の英訳を工夫させてみる。ある程度「やる気」のある学生には、好きな英文の1節(2, 3行から1パラくらい)を声に出して暗唱するよう指導する。英語ができるようになりたいと思っている学生には、多読が絶対に必要であることを教え、その学力レベルにふさわしい(ちょっと上が望ましい)長文、本を読むことを薦める。1冊読み上げると自信がつく。要は読み書きが語学習得の基本であることを実感させること。(勝又)

## 英語学習からこぼれた生徒たちの実態

東京都立羽村高等学校 教諭 猪狩保昌

### 1. 英語嫌いの生徒たちに出会って

#### 1) 生徒の実態

今、日本の英語教育方法は、昨今、すさまじい発展を遂げてきた。読解中心だった英語教育は、英語に必要な技能である、「話す」「聞く」「読む」「書く」4技能を上げるための教育へと確立している。また、小学校にも英語の授業が取り入れられ、中学校・高等学校の英語教育では、外国人講師【(JET) (ALT)】が導入されている。また、学習指導要領も改訂され、まさに日本は英語教育大国へと進展している。日本の英語教育は、英語力が身に付けることができ、また生徒にとって「英語が好きになる」「英語が使えることができる」という環境である。しかし、このような状況下で英語嫌いの生徒は、大勢いる。大勢いるという言い方は多少、語弊がある言い方かもしれないが、学習困難校では英語嫌いの生徒の数は多い。

筆者が英語嫌いの生徒と出会ったのは大学卒業後、大阪府の通信制高校で勤務することになってからである(1999年)。今からおよそ、20年前のことである。当時、英語の科目名は英語Ⅰ・英語Ⅱという名称であった。高校卒業の必要単位は80単位。週休2日制の導入がされはじめ、また卒業単位数が74単位へと変わる時期でもあった。まさに「ゆとり世代」の高校生がこれから増えてくる時代であった。またインターネットも通信ケーブルでつながれば、世界とネットワークをつなぐことができた時代である。インターネットで英語でのコミュニケーションができる時代の始まりでもあった。世の中は、21世紀の始まりだったが、この頃から高等学校の退学率は激的に増えた。それに追い打ちをかけるように、通信制高校が増えてきた。つまり、高校中退者の受け皿としての学校が増えてきた。このような状況下の中、筆者も英語嫌いの生徒にたくさん出会った。ある日、授業をしているときに、こんな質問があった。

「先生、アルファベットの順番が分からへんわ。」

「先生、Be 動詞ってなんや。am って何。」

まだ若手の筆者は、生徒はとにかく中学校を卒業しているのだから、中学校1年生のことは、大抵わかるであろうと勝手に理解していた。このような質問をされ、本当に驚いてしまった。また、恥ずかしながらも授業も私語が多く、何回も授業中に生徒の名前を読んでは注意してばかりであった。また「静かに」と怒鳴った日々でもあった。しかしここで、

気づいたのは生徒にとって、授業中に静かにできないのか、何が分からないのか、分析することだった。

## 2)生徒との対話の中で

筆者は、このままでは授業が成立なくなると思い、放課後、生徒との対話の時間を設け、「なぜ、英語が好きになれないのか。」「何が英語の嫌いになった理由なのか」を分析することにした。また私の授業についても、生徒から感想や意見を聞いてみた。生徒からは、主に次のような意見・感想が出た。

- ①英語が文字として認識できない。地球上の文字ではなく、宇宙語のような感じがする。
- ②中学校の時、不登校のまま3年間過ごしたので英語は習っていない。
- ③英語の先生が嫌いだったので、英語も嫌いになった。
- ④文法が分からない。特に be 動詞、過去形など文法用語が理解できないから、文法も理解できない。例外もあるからなおさら、ややこしい。
- ⑤先生の話が早いし、また長いから退屈する。

(自己授業評価アンケートより)

この感想を聞いたときに、私は教育実習のことを思いだした。話は少し脱線をするが、教育実習での学校も学習困難校だった。教育実習での学校は筆者の母校である。筆者が在籍していたころも荒れはひどかったが、男女共学になったからさらに生徒の荒れはひどかった。やはり、教育実習先もこのような、意見や感想を言っている生徒が多かった。

教育実習は当時、2週間で終了だったので、私は結局、生徒のために何もすることができなかった。だから、今回は何か対策を打たねばという思いが込み上がり、地道であるが対策を打っていった。

## 3)授業を変える

今までの授業を変えるしかない。この言葉が頭をよぎった。今までは通信制の高校の課題であるレポートができるような解説と、詳しい説明などしてきたが、もう一度、生徒からの意見・感想をまとめることにした。

- ① 語が文字として認識できない。地球上の文字ではなく、どこか違う惑星の文字のような感じがする。
- ②中学校の時、不登校のまま3年間過ごしたので英語は習っていない。

①と②の対策としては、英語の授業を中学校の復習を兼ねて進めることにした。英語の基礎からしっかり説明することから心がけるようにした。教師というのは、どうしても既習事項に関しては、生徒にとって分かっているから省略する、省略する等ということをしてしまう。本当に生徒が既習事項に関しては、理解しているかどうかの確認を取る必要がある、生徒一人一人に聞くことは、効率が悪い。だから、生徒が既習事項については、どこまで知っているのかどうかを探るために確認問題でチェックしていた。そして、次に③と④である。

③英語の先生が嫌いだったので、英語も嫌いになった。

④文法が分からない。特に be 動詞、過去形など文法用語が理解できないから、文法も理解できない。例外もあるからなおさら、ややこしい。

生徒に説明するときには、口頭で説明し、黒板にまとめてもピンとこないことを発見した。生徒が、理解できるであろうという気持ちで授業を進めていく。しかし、授業の後にアンケートを取って、どこまで理解できたかどうか、調べてみると生徒のほとんどが、「わからない」「理解できない」という感想であった。この理解できないところをさらに突き詰めてみた。この頃、筆者はお手上げ状態であったが、あるひらめきで改善できた。

次の授業は現在進行形の授業であった。本来なら、現在進行形は主語＋動(am, is, are)動詞に ing 付くという説明であった。しかし、今まで通りでは生徒も理解できないままである。そこで私は、あることに挑戦してみた。

#### 4) 視覚的授業・演技授業

当時のパソコンは Windows98 だったので、パワーポイントというしゃれたものもなかった。視覚的教材は、デジタル教材ではなく、すべてアナログ教材であった。

私は、たまたま授業展開の壁にぶつかった時に、次の本に出合った。

斎藤栄二著『英語を好きにさせる授業』「斎藤栄二」(大修館書店)である。#

この本では、絵を書いて生徒に英文法を教えるというやり方である。例えば受動#

態の導入時に、黒板に猫がネズミを捕まえている図を書く。#

そして、生徒に次のように聞く。#

Whdfkhu#N## Vw:ghqw#N##

W#Z kdw#grhv#kh#Edw#grB#

V#Nkh#Edw#EdwEkhv#kh#p rxvh#

#

英語で答えられないで、日本語で答える生徒もいたが、生徒は図の猫が、何をしているのかどうか理解できた。#

#

次にネズミにスポットを当てて、次の質問をした。#

W#kz kdW#grhv#kxh#p rxvh#gr#kxh#fdwB#

#

生徒の中には、Wkxh#p rxvh#v#xqqlbj など、能動態の英文で答えてきた。もう少し、ヒントを与えて、「ネズミは猫に〇〇されている。ネズミはどういう状態かな。」と聞いてみたところ、生徒の反応は#

「ネズミは猫に捕まえられている。」という答えがやっと返ってきた。#

W#Wkxh#p rxvh#v#fdxjkw#e |#kxh#fdw#

#

斎藤氏のように絵の状況が理解しづらいということもあるが、生徒は、ネズミを主語にしたときに、どのような表現方法で表せばよいのか、わからなかったのである。英語のみならず、日本語でも表現しにくかったのだ。しかし、こうやって絵に書いてみて生徒は、受動態の仕組みが理解できた。これが理解できて、初めて受動態の公式「*eh* 動詞+過去分詞」の説明に入ることができた。#

このように絵で説明する方法もあるが、自分で演技をしながら生徒に示すようにしたこともあった。〇〇君、先生、今、何しているところかな。What am I doing? この時、私はお茶とお箸をもって、みそ汁をすすっている姿を見せて、「これが現在進行形や。先生、今、みそ汁を食すすっている途中やな。」と言い、英語で「I am eating *miso soup*.」と言った。教室では、どっと笑いが起こった。また生徒から、「先生、みそ汁は飲むだから、**drink** ではないのですか。」という質問もでた。

まず、進行形は「～をしているところ」と学習している生徒も多かったが、「～をしている途中」という教え方にした。なぜなら、進行形にできない動詞が出た時に区別できるからである。I am knowing him. (私は、彼を知っている途中です。) この方法であれば、奇妙な日本語であると判別でき、進行形にできないと生徒も判断できる。次に先ほど出た、生徒がみそ汁を飲むと表現するときに、**drink** でないことは「みそ汁は、料理のメニューの1つだから、飲み物ではないから **drink** では使えない。」と説明した。さきほどの授業アンケートから件であるが

⑤先生の話が早いし、また長いから退屈する。

生徒にはくどくど、説明しないようにシンプルに説明するように心がけた。英語教育者の斎藤氏は

「教師は、話をするにより成り立つ職業です。その点では、落語家や講談師と同じ線上にいるのです。」と述べている。



私は落語をDVDで見たり、演芸場に足を運んだりして、話し方を学習していった。また、私は生徒から「味噌スープ先生」と呼ばれるようになった。導入部分で使うネタであるが、生徒に視覚的に訴えるには演技力で、生徒に訴えていく方法を取っていった。黒板であれこれ説明するやり方ではなく、自ら演技をしていながら英文法は、生徒に実感させる方法で授業を行った。

このように、私は少しでも英語嫌いの生徒に「英語って面白い」「猪狩の英語、おもしろい。」という授業ができるように取り組んだ。授業展開の工夫を教師生活が始まって、5年はおかかったと思う。あとの章で述べるが、教材やプリントも生徒が取り組みやすいように工夫をした。英語学習からこぼれた生徒にとって、英語学習に帰ってように、また再スタートができるように以上のように取り組むだ。

## 2. 発達障がいの生徒の英語教育

### 1) 新卒生

2000年初盤は、中途退学、転学した生徒を中心に、英語の授業をした。しかし、2008年くらいから、普通高校に受験しても不合格になる、中学生から進学する生徒、つまり「新卒生」が通信制高校・サポート校に入学するケースが増えてきた。私の経験上、中学校時代不登校の生徒が、通信制高校に入学して中学英語から始めるケースは、珍しくなかったので抵抗はなかった。しかし、次第に日を追うごとに新卒生の特徴や、なぜ彼ら・彼女たちが普通高校に入学できなかったのかなどの実態が手に取るようになってきた。

### 2) 学習ができない生徒

彼らは性格的にまじめであり、コミュニケーションも取れる。中学校の時の欠席率は、皆勤賞に近いほど、良い。しかし、生徒の学習や普段の生活の様子を観察してみて下記のことを判明した。

- ① 英語が英語という言葉で理解できない。
- ② こだわりが強すぎて、書くのが遅い。
- ③ 文字を鏡文字で書いてしまう。bookをdookと書いてしまう。
- ④ ③に引き続き、アルファベットが認識できない。
- ⑤ 鉛筆の持ち方がドラえもんのように握る方法である。
- ⑥ 人の話を集中して聞けない。集中しても、脳で理解できていない。すぐに集中力が切れて、友達と話してしまう。教室を立ち歩く。

ざっと、6項目あげたが、このような生徒が入学してきた。大部分の生徒は、発達障がいにおけるLD、ADHDであった。しかし、生徒たちは手帳を持っていない。保護者が自分の子を障がい児と認めたくないという事実もあり、持たせていないことが事実である。生徒たちはグレーゾーンの生徒たちである。このような生徒たちの学習の特徴を具体的に上げるは下記のとおりである。

- ① 授業中に、静かに聞いていても教師の指示が理解できていない。
- ② 話を聞くことができないため、また理解できないため、脳で理解できない。
- ③ 文字の認識力が弱いため、文字を頭に記憶させて、書き写すことができない。

つまり学習能力に問題があるということである。そこで私は、次のように英語の授業を展開することに心がけた。

### 3)集中することに特化した英語学習

私は生徒が授業に集中するために、教科書の英文を写させるという授業もしてきた。普段、授業中にうるさい生徒も静かにして、集中ができた。文字や文章を写す学習は、学習の体制を身に付けることはよいが、学習の「能力」を上げるには、一定のレベルしか上がらない。文字や文章を写すことで、単語の意味や綴りは覚えることは、できるが英文の内容や文法理解できるということは、できない。聞くこと、話すことは到底できない。生徒に英文を写させることで、生徒の英語力が上がらない私は再度、自分の授業を見直した。50分の授業で、生徒が集中して、学習できる生徒はわずかな時間である。特に学習困難校の生徒には、ADHDや学習障害などの要因を持った生徒が在籍しているので、授業の展開方法については、考えなければならない。私は、どのように授業を展開すればよいのか、試行錯誤した。

1つ目は時間である。50分の授業で何分経過すれば、生徒の集中力が途切れるのか、生徒の様子など観察して分析をしてみた。およそ、授業が始まって10分～15分経過した頃が、集中力が途切れる時間帯である。私は10～15分ごとに、やることを変えるようにしていた。少しでも集中力が持続できるようにした。

2つ目は、教師の言うこと、板書するものをまとめた。授業で何を説明するのか、何を板書するのか考えた。まず生徒が集中してできた活動としては、ディクテーションである。教科書の本文を穴埋め形式にして、( )に聞こえた単語を書かせる。もし、何もない状態で( )に書かせることが厳しい場合は、選択語群を設けて、聞こえた単語を( )に書かせる。そして解答は、本来なら教科書で確認させることもよいが、生徒が解答を板

書させるのである。このやり方が定着できれば、ペアーを組ませてじゃんけんをする。じゃんけんで勝った生徒が、英文を読み負けた生徒が、ディクテーションをするのである。勝った方が終われば、今度は交代させて活動を続けさせる。

しかし、この方法ばかりでは、生徒にとって学習に飽きがやってくる。また生徒にとっても生徒自身が、英語ができているのかどうかの感触がない。そこで私は、生徒の学習能力を引き上げる授業展開をすることに取り組んだ。

#### 4) 学習能力を引き上げる英語の授業

私は、英語の授業で生徒の記憶力、集中力、理解力を上げる授業を試みた。また大学で特別支援学校の免許状 I 種を取得しながら、学習能力が弱い生徒を克服する方法を模索していた。まず、私は生徒が黙って学習に集中できるように教材を考案した。その教材が次の通りである。

例えば **important** を生徒に覚えさせるには、意味、発音、品詞を説明する。また例文を出して生徒に覚えさせるように工夫する。しかし、一度に 2 個も 3 個も説明する、教えると生徒は混乱する。少しずつ覚えさせることにした。まず **important** という単語を 5 回写させる。

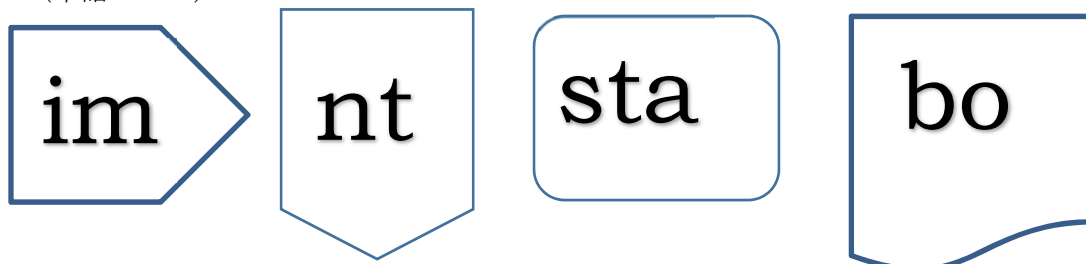
**important** (重要な) \_\_\_\_\_

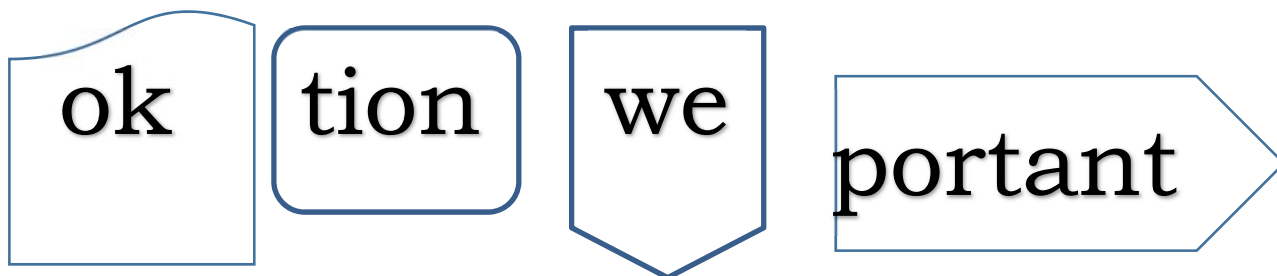
次に写させた後は、**important** の文字を 30 秒眺めさせて、見ないで書けるようにする。書けない場合は、手で覚えるようにして書けるように何回も書かせる。

LD の生徒は、目で覚えることと、手で書いて覚えることは別になっている。私たちも難しい漢字や英単語は、読めるが、見たら意味が分かるが、書けないということが起きる。LD の生徒も同じである。手で書いて覚えさせることと、目で覚えることは分けたほうがよい。だから私は一緒に覚えられるように目で覚えることと、書いて覚えられることはセットにしていった。

そして、次に知っていそうな単語も含ませて単語のパズルをさせる。単語パズルについては、次のとおりである。

(単語パズル)

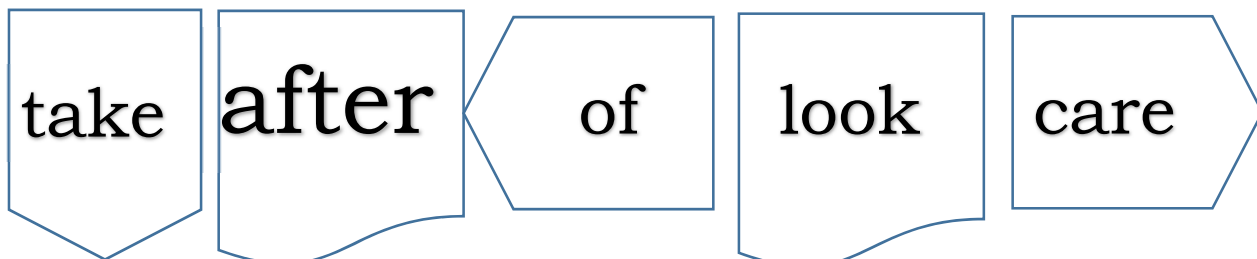




この単語パズルは、同じ形の文字を組み合わせて完成させていくのである。私の経験上、文字が認識しにくい生徒は、図や絵、色に敏感な生徒が多い。授業中にプリントの裏面に落書きをする生徒が多いが、絵は抜群にうまい。

話は脱線したが、このパズルで生徒は、ただ同じ図を探して単語を組み合わせるだけでは、完成できない。生徒の中には、**station** を **tion** と **sta** と組み合わせ、**tionsta** と組み合わせた生徒もいた。しかし、試行錯誤して単語を組み合わせて、正しい単語を作成していくということである。今まで集中できなかった生徒も、「これならできる」という気持ちをもって生徒は取り組んでいくのである。自分の覚えた知識とパズル感覚でやれるということにおいては、生徒にとっては「学習」半分、「遊び心」半分で学習に打ち込むことができる。この単語パズルは、後に英熟語にも発展したので、紹介しておく。

(英熟語パズル)



### 5)遊び要素が入った教材

学習能力が弱い生徒が英語学習に誘うためには、とにかく授業や活動に引きずることが重要である。生徒が英語の授業にどっぷり漬かるために、教材作りの工夫が必要である。例えば日本文から英文にする時、通常なら下記のような出題をする。

次の日本文を英語にきなさい。

- ① 私は昨日、学校に行きました。
- ② このニュースは、私たちがうれしくさせた。

しかし、私の場合は、次のように出題してみた。

次のアルファベットの中には、単語が隠れています。単語を探し出して、「私は、昨日、学

校に行きました。」という英文を作成しなさい。というようにした。

hyhalkinwwentlokn tofhijnbschooljiwdgyesterday

Hyha [ ] inw [went] lokn [to] hijnb [school] jiwtdt [yesterday].

ランダムに並んでいるアルファベットの中から、単語を取り出すと、自然に英文が作れる仕組みとなっている。生徒は、正しい単語を取り出して、英文を作成していくのである。デメリットとしては、見にくいという面もあるが、集中して取り組めば問題が解けるようになっている。

この教材は主に「読み」「書き」を中心とした教材である。授業中に充てられることが苦手な生徒や、人前で発表することが苦手な生徒には、安心して取り組める教材である。しかし、生徒の中には 50 分集中して学習に取り組むことが困難な生徒が在籍していることもある。そこで今回は、生徒に少し活動をしてもらう教材を紹介する。

(ディクテーション&単語かるた)

この教材は、単語かるたという名前である。今回の発表で紹介したものである。最初に、教師は A3 の用紙と単語を 10 個～15 個用意する。教師が単語を読んで、生徒は聞いた単語を書く。書き方は、A3 用紙に単語をばらしてかつ、いろんな場所に書いてもらう。教師がすべての単語を読み終わったら、隣の生徒と答え合わせをする。間違った単語は、正しく書き直す。答え合わせが終わったら、教師は生徒が書いた A3 用紙を回収する。回収後、生徒同士、ペアーを組ませる。ペアーごとに、ランダムに回収した用紙を配布する。

回収後、教師は単語を読む、またその単語の意味を言う。生徒は教師が言った単語、または単語の意味を言って、関係する単語に○印を付ける。単語を見つけて、早く○を付けた人が勝ちである。最終的には、○印が多い生徒が勝ちとなる。

要領はかるたと同じであるが、生徒が書いた単語シートが使用されることと、生徒が書いた単語シートがかるたというゲームに展開できるので、生徒も楽しくかつ、ゲームをしながら単語学習に打ち込めることができる。また、集中して教師の言う単語、単語の意味を聞かないと、相手にとられることになるので「集中力」が必要となる。この教材は、予習ではなく復習で用いると効果的である。

(単語の仲間外れ)

次に単語の仲間外れ探しである。下記の英単語の中に仲間外れの単語が 1 つある。

- ① green red yellow black
- ② Summer Spring November Winter

- ③ forth four forty fourteen
- ④ tell ask talk play work
- ⑤ deep small important large depth

- ① の解答は、**black** である。**Black** 以外は信号の色にあるからである。
- ② の解答は、**November** である。**November** 以外の単語は季節あらず単語である。
- ③ の解答は、**forth** である。理由は序数である。
- ④ の解答は、**tell** である。**tell** 以外は規則動詞である。
- ⑤ の解答は、**depth** である。理由は、名詞だからである。

私はとにかく、生徒になぞなぞ、クイズ感覚で問題を解かせるようにしたのである。学習習慣が身につけていない生徒、英語学習にためらいを持つ生徒にとっては、少しであるが、「やってみようか」という気持ちになって取り組んでいた。

#### まとめ

英語教師をしながら、学習困難校、生活指導困難校を渡り歩いてきた。今回私がまとめた前述した内容は、まだ発展途上の部分である。または、今回は生徒にとって受けが良くなったが、今後、役に立った教材もあった。学習困難校、生活指導困難校での英語教育には、正解がないし、特効薬の教材もない。しかし、目の前にいる生徒の様子、実態等を観察して授業を展開することが必要である。社会情勢や家族の状況、生徒の生活文化が急激に変化する中で、私はその生徒にあった教材を開発したり、展開方法を工夫したり、また私自らセミナーや勉強会に足を運んで「新鮮なネタ」を仕入れていきたい。

#### (参考文献)

- ・ 斎藤栄二著『英語を好きにさせる授業』（大修館書店）#
- ・ 斎藤栄二著『「英語で授業」ここがポイント』（大修館書店）
- ・ 斎藤栄二著『基礎学力をつける英語の授業』（三省堂）
- ・ 茂木弘道『小学校に英語は必要ない』（講談社）
- ・ 関 正生『サイバイバル英文法』（NHK 出版新書）
- ・ 川村光一編著『学習困難校を克服する英語授業のアイデア&スーパーワーク』（明治図書）
- ・ 江藤秀一・鈴木章能 授業力アップのための英語圏文化・文学基礎知識（開拓社）
- ・ 大西泰斗『英文法をこわす一感覚による再構築』（日本放送出版協会）
- ・ 伊藤・嘉一・小林省三編著『特別支援外国語活動のすすめ方』（図書文化）
- ・ 山口薫・西永堅編『学習障害・学習困難の判定と支援教育』（文教資料協会）
- ・ 中村義行・大石史博編『障害臨床学』（ナカニシヤ出版）
- ・ SUZANE BRATCHER with LINDA RYAN

『EVALUATING CHILDREN'S WRITING』  
(LAWRENCE ERLBAUM ASSOCIATES)

編集後記

3月に入っても寒い日が続いておりましたが、ようやく春らしい天気はこれから増えてくるとの予報を聞き嬉しく思っています。今年は寒い日が多かったので余計です。

ちょうど国立大学の合格発表の時期となり、このメールが配信される前後はマスコミ等でも合格に関するニュースでにぎわうことでしょう。

それにしてもこのところ大学入試の問題にミスが多く話題が続いているように感じます。今年の京大の化学にはかなり多くのミスがあったことが大きく取り上げられましたが、私の地元の香川大学でもミスがあり、こちらのローカルニュースで大きく報道されました。おそらく全国的なニュースにはならなかったでしょうが、それを考えると各地方でも同様のニュースがその地域だけで流れた可能性もあります。

希望の大学に合格するかどうかはその人のその後の人生に少なからず影響を与えます。だからこそ報道も大きくなるのでしょう。

大学の受験科目のなかでも英語は重要な位置を占めます。国際化との関連から英語教育の改革は他の教科以上に注目を集めています。その意味でも我々が背負っている責任は大きいように思います。

昨今のニュースを見ながらふとそんなことを思い、気を引き締めて職務にあたっていくことの大切さをしみじみと感じています。

平見勇雄